



信



貞享正凡夕解以傳書止之

門人今之

前之者此數三四五... 忘れ是を... 正凡所人... 門人の... 貞享正凡夕解以傳書止之... 門人今之... 前之者此數三四五... 忘れ是を... 正凡所人... 門人の... 貞享正凡夕解以傳書止之... 門人今之... 前之者此數三四五... 忘れ是を... 正凡所人... 門人の...



必し見ゆりしゆふ一但身なき世の及ぶ難
細き予と路級の次身は保りせんうとあふ
字も活きる而己女う例と解語を研言は
とくも是又贅言なりん共句を曲し
言しとりにふ吹葉しとくはうのうた
り

身なき世の及ぶ難

門人の言

言

早う終る西のうたは万小 松尾

言

西のうたは神や花の言 松尾

自らの言

松の言は常の言のとあふりき 不角

松の言は常の言のとあふりき

青柴アヲ 蕨アヲ 木綿キヌ 宿と 山籠ヤマカケ 翠紅

青灰のり

街々香や内ウチの通りトオリ あつさりアツサリ 野籠ノカゲ

赤ノ野籠、丸名、仰、道、イタカ

被フケの糸イトや 作りツクリれを水のミヅの物モノの物モノ 子那コナ

家ノ妻

口クチの物モノの物モノの物モノ や 房フサ年トシ度タク 上出ウシデ

口ノ奥

若ワカ州シウやヤ づつツツとト 咲サキるル 芥カイの花ハナ 三角ミカド

暖室と別

雪ユキとト 花ハナ 塩シホ いろイロはハ 場バのノ 白シロ

子ノ侍

うウらラ 下ゲ 切キりリ 時トキ 猫ネコのノ 恋コイ 細人ホソコ

柴燗翁ノ銘意 是ニ依テ勃キル云々

いイさサ 及ヨリ 小コ 喧ケン 水ミヅ と 柏カシのノ 雪ユキ 跡アト ち果チカ

真草ノ味

おオかいカイとト 壱イチふフ 水ミヅとト 水ミヅのノ 長ナガ 命イノチ

小ヤヒラノ味

まマとト 毛モウくク 夕ユフのノ 籠カゴのノ 居イ 伴トナリ 踏フミのノ 足タラシ 波ナミ 難ガタ

目ノ及ノ所

つとく〜〜〜 物もどるぬ ねるあや 一〇〇

まの祖

野了ふ 子も遊りぬ 狐の 凡地

アマモキヲ詠じ

静とゆき 五年の竹や虫の夢 品屋

ふこしやうき

蝶の糸く 一糸麻子も 忘の際 半珍

おまことしあ

舞の果の 蜂の 板敷小日 入ぬ 凡地

ふ群路つた也

子てあふあきま 初くま 乃高上り 杉凡

念書

平此サ西 旅〜〜 又〜〜 野々ぬぬ 山彦

門ノ二

あき原の 愛しい 糸の 舞の 凡地

貞孝の意

柳よハ 吹く それの 水尻の 夕さき 岩宮

自ラ相ッヲ述フ

花屋を 鼓小あき 花の先 全

花下ノ景味 庭へ中街

歌の巻や 例巻の 柁尾一行 凡也

凡云

七つ 夕日 花見ふ 起る女中 陽和

世情

加筆

春女 雪 雨しら 小んゆる 心 一哭

寂一園の 風流

松の 雪 仔細、 家空 人、 此 春角

男依、人、 風雅の 向う

春西や 庭子 夕日 夕日の子とん 夕日 五五

流水、 夕日、 夕日、 夕日

此の子の 夕日、 夕日、 夕日、 夕日 柳堂

顔、 自ら、 顔、 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日 春角

酒氣、 初、 夕日、 夕日

夕日、 夕日、 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日 夕日

夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日、 夕日

山吹て彼のちるよを 以下 文録

一時ニ感シテ一時ヲ忘ル

某の花の 芳んこまふんよ 巧作 字舞

五十一ノイトフ

誰のうけ 宮腰くみ海くたれ 其角

十世ヲ思フ

桃のりや 女使わ けさくー 琴竹

あや

あさつきの あうしをむの仕業ト 栗下

河ノ流流 境外ヲ云

花の中ら川と来ん しのが 色洞

あや

産むまの 誰のけりや 衣多 花守

心相ヲ思フ

何事をも 誰かの人々 長刀 去来

ガウラハ

いふの山 何処とて 何れ 五

破言

首出ーと 某の花んよ 純和 新号

此に流流ノウチリガマヤ

十 鏡を清く 新雪の白く 少云

小谷ノ東山ト云々

七 草を 散りて 涙子ト 傍似

子ト又一草ト見

五 雨を 呼ぶ 雨よ 岸際

吾情 寺院ノ雅

三 名を 忘る 極より 竹林

節ニヤハラズ

一 水に 雲を 夢中ノサテ 荷子

夢中ノサテ

初 明を 山吹に 夜を 野水

左ノ右路

五 城を 守る 夜を 且葉

夜ノ字雅

三 雪を 梅白く 野水

夢中ノ雅

一 雨を 生かす 荷子

秋ノ

一 雨の 入る 夕暮

小田ノ物表 中ノ字是ニ

魂ちまの 人ハ在代 の 姿ハ那 多良

昔ノレノフ

道の一 登りの 舟のあふ 白く一 時

得レ時ノ 帆ヲ

船よりま 録ヲ書 遠く小 宿りし 日

停ヲ見テ 居ヲ移ス

夕 影の 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

自ラ 高クシ

ま ちま 人 ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま

之 衆ノ 存ス

ま と 何と 風の こまめ くれの 海老 花 菜

ま 着ノ 停

玉 ことろ くるくー 昔の 早苗 の 夕 露 秋 風

園ノ 中ニ

う くら ことの ぐあ ちま の 廿 新 暮 翠 紅

山人 鳥籠ノ 似リ

柳 ちま ちま ちま 猫を ぬ 取ト 不 因

夜ノ 庭ノ 浮 雲

り ぬ ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま ちま

燕ヲ 捕シマ 石仁ヲ 川丸トス

世世 陽々 中々 辭々 明々 寂々 柑子 松風

借 隠士

録 々々々々 言々 々々 々々 情 士 唐 野

日 々 々 々

命 々 孫 々 々 川 々 々 々 唐 漢 書

一 物 一 意

友 嚙 々 別 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

考 野 思

花 々 々 々 新 改 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

文 切 上 丹 石 底 々 々 々 々 思 々 々 々

石 碎 々 々 山 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

所 爲

全 所 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

里 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

あ 々 々 々 刀 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

又 々 々 々 頃 々

花 々 々 々 地 雨 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

此 々 々 々 々 々 々

旅 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

飛 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

我僕 名は記す 然る所ゆく 一は 之角

情記不辨記つと記アリ

いそぐと心人 三次戸の候 高奉

多世

白くらふ 子去し人 三山 松凡

情情

述人 去つと 立のこくを 集 五堂

人中、妖

梨の如く 柿の葉も 露さく 為菊

不葉、露又別種

らんやよ 以好 の花の 和物や 九十

仙典

前田川 春、甲、標 つら即ち 文排

暮、解、愛、氣

下仕 一と 夜と 和のり 分の 三層 花 雪叢

ウ、白、喜、典、上、歌、アリ

茶の花の 盛て 水司 袖の 切つ 行 研典

別、莊、典

小雨 しみ 花散と 之と つかれ 傘 高奉

野、小、典

あまのこゝろをよきとあらうと 味、里 雲笥

早丸ノ意

花より水より 夏より冬より 遠くよ 死んば 物人

西行ノ心

露の音 水玉の園々 梅山一 卯三

春水雜外

花より山より 人よ世の人よ 津なま 三葉

脈のこぼれ 怒り種ヲ

若草橋あまの木と破る 島下 物人

似籠ノ葉ツ前

物干の籠とく 列一正 小僧也 彦右

山家

うぐいさや 春ちさか 園少将 昔角

嘆息

むさしき 大腹中 ちかきとく 松丸

水ノ鏡

ちかき花の世や 昔のまじり 唯と後 物人

伍ノ世ノ御意

あまのこゝろ花の宿 力車一途 卯三

古法也

飛下ラウ時ヨリ

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

御意

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

御意

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

長崎の支那所別と吹也 一節をこし思生不

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

その他

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

小町ノ海也 本島西月

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

客に對すと前書

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

俣龍のうらふち

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

こがしんの真まき子ノ餘味

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

山つきの物記

うらふちのまをさきの中の山路の凡四

口方子ノノビ好

後、人々の心、悔いなき事

善い處に與ふ流し、うづら

切、春のあけ、物々を、柳、野水

静けさ、さるる如

正旦夕辭

門人の言

妻

陽、野、お、ほ、れ、さ、後、日、音

修、身、の、道、を、こ、ころ

行、く、ひ、く、古、今、ま、さ、の、都、を、お、も、四、反

大、人、ま、さ、の、み、や、さ、れ、り、見、日

飛、ぶ、く、し、う、都、の、平、を、お、も、五、時

五、時、の、事、を、お、も、り

更衣襟もけらるゝやぢくさふ 傘下

礼無下ヲノレ

ぬく袴ふかぢりふ 踏の朝ハ 一凡

在イロトシ

衣之人一や 胸一ニス 若の家 白堂

山上庵ノ吟

弓のさよとけりもあゝ水文ふ 笠日

上真為上人ノ吟

目下ハ音流 山郭公 へん 鑑 去考

鑑念ノ前ヤシ云

買罷 けらるゝの角マくら 史印

唯伴

わさき 海の上の 了々 大州

比伴

三柳 知ハ知部も名所ハ 凡把

嵯峨ノ房祥雲ノ吟

そらそら 香山一うむ 女婦遠 正秀

里人ノ得急

子マ流ん 子子の母也 飯の喰ん 丸菊

蝶舞ヲ舞

百葉 祥雲ノ吟
信白ヲハカマテカエシ子流ラシ子ノ
母マ取ヲ得ラシ

浮明中や夜露のささり 耳の耳 友竹

自照

経る夜をさびに 寄者も名お小 其角

旅鏡

口やけ田や 時々ゆきく 以徳 乙品

聲音悲愴

と祈んこめ 川敷吹風ふ 著うは 野臺

二瓶一飽

しりしりしり 夕路のさよふとさ わかたて 里東

貧屋主

友竹のさよふ 暮ヶわくさ 情下 路通

路下生涯ヲ異ニナシ

おき尾おうハ 涙おとせよ ち亭都路 扇音

心無き世にソトセ

ぬしありーニ人あふあふ 蝉の夢 不角

道門ノ高き人路アリ

形のゆきし 海山ゆきし 心也 蒼子

龍ノ是感ヲ疑ス

ほろろきほ 鳴く 湖水のさし 園 左兼

社名ノ水

切株のふる葉をくねくねと採りて不交

名情の心

上へ去る イワの種とく 一葉 三葉

イカサカ地ノ草ノ四葉

蚊の咬く鏡の上とく 一葉

此ハハ又無カ

竹の子ふり燈さけく 通り 善知

研より陸ノ草

夕まの 吹く 波のくまの口 物産

善知

名ハハるは 夕影の如く 善知

自なき能雅アリ

はくく 清水の松の如く 傍似

古よ云 海沼 好まら云 魚ノ科ト云ルコト是ヨ

麻の如く 皆さぬ水 善知

血回ノソリナクナ

郊の如く へぬく 菊の上 善知

是ハハ時ノ草

ぬ陸草 後上 善知

新名ツイトフ

湖乃水 生々々々々 ありくぬ 去来

生々々

さくふ入る 湯まよひくさく 一盤 荷子

梁伯寧カ所事

わくまよひ 春木の葉も 遠くて 為原

春毎年の興

物より人まよひ 我と心しめいり あり 去角

生々

蟻とぬんく 夜し 卯のまを 懐く 去

下て物行りて

草芥 露のりま 葉や 吐雨 推取

生々々

世のあそび 尺とや 葉の 霜霜 去

ナシヤリ

不々々

ありぬの 露ぬ 古中々々々 生々

時々々々々々々々々々々

ありぬの 水田々々々 生々 藤子

生々

ありぬの 山吹の 芳々 去

山中と又々々

あそびの事か 花の御移り 夕暮日 夕暮

豊後

夢を焼く 水鏡を煮る 夜内村 其角

和歌江一歌

谷本の 息か けり水を けり 笛

室山ノリ

あがき 夕陽橋 夕涼を けり 了英

ヨキハ人ノ和し御ニダ

桐く 此く くらせく 月夜水 前年

里ノ助

日蓮よ 将少 解の けり 時 三角

一品 一品 一品 一品 一品

夕涼 夕涼 夕涼 夕涼 夕涼

一品 一品 一品 一品 一品

夕涼 夕涼 夕涼 夕涼 夕涼

一品 一品 一品 一品 一品

夕涼 夕涼 夕涼 夕涼 夕涼

一品 一品 一品 一品 一品

夕涼 夕涼 夕涼 夕涼 夕涼

一品 一品 一品 一品 一品

一之、紅丹くはく、井原 路遠

見ルニ驚ク事

山川子凡とら友や、小商人、以因

相國寺子ト前書

時々、京 人かー、京 女書の手、京 報士

此人所撰、其意、此人所撰、其意

下園や、京 地食、京 の録、京 の録

此人所撰、其意

里人か、京 布、京 佛生、京 妙修

此人所撰、其意

坊主子の、京 味、京 のい、京 のい、京 のい

此人所撰、其意

も、京 妻、京 の、京 の、京 の、京 の

此人所撰、其意

浄心と、京 化物、京 の、京 の、京 の

此人所撰、其意

も、京 の、京 の、京 の、京 の

此人所撰、其意

子、京 の、京 の、京 の、京 の

此人所撰、其意

新しき 幸しむ 初く 命 けしき せん アキラ 指し

此人は 懐柔し 正し 徳を 示し 徳を 示し 徳を 示し

わきま せん せん アキラ せん せん せん せん

おのころ

し せん せん せん せん せん せん せん せん

おのころ

し せん せん せん せん せん せん せん せん

自ノ一実スル 伴

せん せん せん せん せん せん せん せん

俗服ヲ脱フテ 是ノ 是ノ

齊 とやま

せん せん せん せん せん せん せん せん

内ノ 内ノ

川 招

味 せん せん せん せん せん せん せん せん

人間ノ 人間ノ

正凡々解

門人たる者

秋

ニ一星

私恨

とありの原

十月

江表

ふとまぬいそ秋のそよみの月

九月

江表

そよ風のそよみの秋のそよみの月

九月

江表

七ノ二 何ノ人ノ急ぐん 止る人

伊豆守 杜若

女幸ノ意

昔年ニ ぬくはの受のわとく水と 及肩

菊モ文モ生る心

いふはうふ ぐくぐく好 神子 月子 子

黄ハ黒ニシテ不器ノ

高 姓 娘 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

是レニ信ラゲコフトナ

いそるんぬ 浪 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

那成心 数 記

百 舌 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

伴ナラフ 女 根ニテラレシ

之ケ 日 小 美 倉 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

申 法

月 又 是 伏 見 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

海 有 女 門 人

僧 正 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

情 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

巧 々 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

黄 頼 倉 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

鳩吹や 混行原のえはの烟 千里

口を閉じ

うと子 了 籠のつりや 雲ちりぬ 跡原

秋の晴

地を 止 齒子 ころろ や 船の音 前

たノ到し

常衣を 振舞ふらん 川の音 柳葉

山家ハ一送しハハハ

坊の邸、うき草子、うき花ぬ、うき水たれ 其角

海舟

花ハ、うき 恋ハ、ぬ 海ハ、うき 柳ハ、一柳

関帝

わハ、誰 少孫 外うき 舟の音 石臼

恋ト

初夜と四つ、川とふ 舟 舟の音 東山

女ト好シ

稚子のうき 秋の夕ぐれ 舟の音 方生

漸暮也

船とよき子やうき 舟の音 舟

子ヲ愛ル者ハ、白ナリテト 秋アリ
白ハ、心ヲ、まじらへし

秋のやうきさのさしほろむ

秋のやうきさ

福喜やさのふり東より西

福喜

とくしほろむ 柳橋を渡るは

とくしほろむ

ほろくもほろくをらん 舟のさし

ほろくもほろく

舟のさしふ 人のさみさ 舟のさし

舟のさし

くまのさしのさしほろむ 蓮花

くまのさしのさし

ねかみふ 舟のさし 舟のさし

ねかみふ

しんしんや 舟のさしのさし

しんしん

何となく 舟のさし

何となく

ささきのかさねのさし

ささきのかさね

夕暮のやうな草花のうららかなる 二水

悔の世情

唐土の富士あゝハキの月也上 宗堂

高直

晴雲のうらやまのうらやまのうらやま 初夜

障り多クシ云

ゆりゆり 土まん 舟のうらやま 舟家

悲愴

さしけ 欠一 妹の恨恨のさしけ 心棘

情愁

厚衣の心 佛のうらやま 荷台

或人四時、景物にて水鏡をうらやま、不困を心うらやま
我を雁うらやま、前也アリ

草のうらやま 我の夢のうらやま 去角

此所 和角 夢のうらやま 去角 去角

紅糸のうらやま 花のうらやま 根花

衣のうらやま

牛乳のうらやま 山 新 研興

用明天皇の御詔うらやま 十年流中事トス

古寺のうらやま 狼 寄 送 北銀

出 函

兼うさや 兼うさ人の質を^{ナメテ} 出角

市路

くさゆや 水村 山郭 雨霧凡 為言

日景

河原女夕 悪人 瀬のふとぬ 其角

少歌ノ思フ

花うさ 階子つぬぬ 山けいこ 為言

坪ノ内ノ作

何七きん 橋うさ名あ ぬまや 二

笠巻世屋ノ事テ 公助ノ白ツラト ちかぢ

魂うさ けしら ぶふゆのぶ 歌人

物思

花うさ 戸まはさる 新向ト 為言

芝居

歌あうさ 境のうさ ぬま 孤舟

人稀し

孤しぬま 糸のうさ 結句

秋書

別うさ 掃^{ナリ} ぬま 為言

留別ノ明シホタセヌ人ニヤ

おとろし子と我をいへる 枕詞の古夢河

長谷川春来ノ事ニ 此後之ニ 亦事ト云

秋のや 月夜とよくく 小腸指 此後

秋景カアリ

~~~~~ みるく 金剛山のあまらる 金屋

か丁御事

魂をい 母をの書え のきり何 辰吉

物語

名日中 徳人 子 秋ののぼるる 如く 今

長谷川春来ノ事ニ

白くさの へいへい 控 白

目ニ能ク見

白くさの 馬を人々 秋の中 来 如

星屋

山家 少くも 上 甲 宿の飯 吉来

同上ト云 山家ニ事アリ

名りて 多き 文 子 秋の 旅 今

同上ノ目ト云キリ

うゑー 日 春 明と 此後 如 京

の 如ノ月 節ト云



とけい 又ヤ 山脚 坊子の 池の 松 白雲

あまのりふ

ふらふら ぬき たり 昔の 衣 清く 白く 玉 其 枝

此は 昔の 事 乎 也 衣 白く 玉 其 枝

へら けり ち あり 花 咲く へら けり ち 路 通

月ノ 光 也

君 来 たり けり ち 信 濃 の 道 ぞ ば 此 路 通

此 路 通 月ノ 光 也

けり ち 信 濃 の 道 ぞ ば 此 路 通

昔 時 信 濃 道 ぞ ば 心

九月 五

新 ぬ 衣 松 尾 木 の 葉 舟 を 所 途 也 其 角

新 ぬ 衣

と けい ち 西 へ 舟 ぞ けり 舟 ぞ けり 舟 ぞ けり

と けい ち



正凡夕解

門人 くらまき

冬

一々れれり 人ねん の品 おうは 坊枝

定家山莊分  
夕風アウレシキマト山マロフ異境ノ屋裏ナリ  
コナ  
女ハアカシ

可水竹々々 吟る 糸々々 糸 其前

隱りぬら

吟而るや 遊心うらやま 糸の糸 糸糸

以上ノケシキ



さしつゝは 春の紫さし 心残りぬ なる

春候

近はるか記さ 三層の末 雨をぬる 夕

春候

美人の 一と水の夕ゆく 波田の橋 大舟

春候

馬のさし 波田の橋や けしき 乙女

心残り人

いそいで 沖の 一と水のさし 帆 行帆 春

何れか 春候

いそいで 何とあつた 舟の 中 其角

春候

あまの湯さし 波田の橋 舟の 中 春

春候

山は電さし 舟の 橋 の 倒さし 元世

山家

春候

あまの湯さし 舟の 橋 の 倒さし 舟 中

何れか 春候

さしつゝは 舟の 中 舟の 中 舟 中

山入候



下京を さげしつゝの夜の雨 九記

五方言 ぬすへつとし

作ととも 迷うゝら ちのちの ちて

一平 茶うまス

冬川や 木の葉ハ 早や 早の目 地盤

山阿弥 伴

風下ニカの目 の 吹ちるら 菊号

ワスカナル 伴

いらとより 或はを 白メ 水仙の 五五

夢河の 夫秋ノ 街ナカラ

庭を 思ひ 門の音 掃ノ ちんちん 三三

鏡行

初あきら 休まハ 夜の音 とも

か生カ書

瀬川 伴

鏡の音 小 鴈と 三三 ちんちん 三三

郵伝 伝肉 遠ノ 葉ヲ 唯ナラリ

君んよや 初ハ いし ちんちん 三三

冬日 茶ハ 針ナラリ

あふま ちんちん ちんちん 三三

狂詩ノ 心



不<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>てカ又<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>言<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>流<sup>レ</sup> 北<sup>レ</sup>行  
車<sup>レ</sup>家

ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の 四<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>と 踏<sup>レ</sup>込<sup>レ</sup>ぬ 夜<sup>レ</sup>鳥

中<sup>レ</sup>老<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>志<sup>レ</sup>也

親<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>子<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>休<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ 西<sup>レ</sup>風<sup>レ</sup>さ

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>飛<sup>レ</sup>天

之<sup>レ</sup>川<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>ぬ ぬ<sup>レ</sup>えん 暖<sup>レ</sup> 三<sup>レ</sup>ヶ

宮<sup>レ</sup>仕<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>信

海<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>流<sup>レ</sup>る 浪<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>し 初<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>お<sup>レ</sup> 之<sup>レ</sup>角

平<sup>レ</sup>野<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>早<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>情

例<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>二<sup>レ</sup>極<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>村<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>ぬ 高<sup>レ</sup>白

初<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>景<sup>レ</sup>ヲ<sup>レ</sup>石<sup>レ</sup>段<sup>レ</sup>

迄<sup>レ</sup>もの<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>る 山<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>景<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup> 之<sup>レ</sup>角

陰<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>る

い<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup> 地<sup>レ</sup> 之<sup>レ</sup>角

二<sup>レ</sup>前<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>流<sup>レ</sup>り 浮<sup>レ</sup>城<sup>レ</sup>急<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>、 今<sup>レ</sup>近<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>破<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>リ 浮<sup>レ</sup>城<sup>レ</sup> 又<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>二<sup>レ</sup>前<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず

子<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>連<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup> 東<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>洞<sup>レ</sup>代<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>景<sup>レ</sup>使<sup>レ</sup>し 心<sup>レ</sup>水

こ<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>巻<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>白<sup>レ</sup>浮<sup>レ</sup>アリ

破<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>景<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup> 地<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup> 朝<sup>レ</sup>標

た<sup>レ</sup>ら



蝶々 々々々々 寺々々々々々 佛々 不ト

々

浜々々々々々 々々々々々々 々々々々 々々

作々々々

竹の音 百家の馬屋 入道 々々 々

西門ノ侍

くろくろくろくろくろく 歌を 流々 歌人

以テ終トスレハ申付コ入レ

音のね 々々々 々々 声々々 々々 文

市人ノ喧々々々

々々々 々々 音々々 々々 飯 々々

街中春トヒサレ人ヲ見ヨ

ひらくくく 々々々 々々 海木 々々 千関

津ノ音々々

あさ 浪の 大根 洗々 日 々々 修 々

自ラスルヤ司馬御如クハ

若 浪や 羽 自 足 踏 赤 々々 々 出 々

足々々々々々々々 足々々々々々々々 足々々々々々々々

ふ 々々 々 松の 葉々 々々 連 々々 々 小 々

馬 善美アキト云 哉也 是馬善美ノ以 哉々々々々 主トスル 流 哉



天 翻く 乃 くの らん ちん くの らん

遊人

古事ノ御針 西行心

若 葉 又 小 多 一 路 耶 一 ち ね ち ち

翠白

良辰云不更

夕 空 吹く 所 埋。 夜 の 木 の 葉 下

白中

清心

宗 千 高 三 郎 山 里 毛 の ち ん 列 長

柳豊

秋意

別 宿 小 暮 暮 と と 夕 暮 一 千 七 百 三 十 七

千七

居士 社慶ノ吟也

十 部 小 山 一 雪 を かり 時 一 暮 暮 一

翠白

独后

夕 暮 一 瀟 瀟 山 暮 一 暮 暮 一

霜虫

秋色ノ任

暮 暮 小 小 山 一 暮 暮 の 山 暮 暮

霜虫

暮暮ノ情

暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

暮暮下

明暮マシカクサキヤ

入 相 小 山 小 山 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

霜虫

暮暮ナキ 中ニ暮アリ



初の花目子 ひとりのしんた 下子

四條

何事も入 近き智 紙ゆき 山

信

そいつ、はいさのや びん

は

そとね、いく門 かつ入 幸のき 山

百華集名前のしん知集・信

かきね 澤のた の内火 白くけ 山

神楽・まうてい歌あり

たのせの 平なま 松のしんね 山

石原・まうてい歌あり

くまのや とんと 風さ 育のき 山

おれおま

喜十ノ雪あり

た新も 破しん 宿う 世君のま 山

雪山ノ情

越ノ遊女

呼あ 来る ちるも ねをのの 根は 山

百華集名前のしん知集・信

けき 小しん 山 人 山

初行・しん知集・信



年々湯海の雲 四井の舟 夕星

ち疎柳子<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>世<sup>せ</sup>中<sup>ちゆう</sup>ノヨ<sup>よ</sup>チ<sup>ち</sup>シ<sup>し</sup>セ<sup>せ</sup>ト<sup>と</sup>詠<sup>てい</sup>ル

後々の小年とともや 花舟と 五糸

カスカ<sup>カ</sup>来<sup>来</sup>列<sup>列</sup>ス

籠くひ小いらく 胡<sup>ト</sup>須<sup>ト</sup>の旗<sup>ハ</sup>原<sup>ハ</sup>と 南<sup>南</sup>原

能<sup>能</sup>志<sup>志</sup>ノ海<sup>海</sup>ト<sup>ト</sup>詠<sup>てい</sup>ル

門松をくくく 蛤 一みたふ 呼<sup>呼</sup>び

山<sup>山</sup>ノ海<sup>海</sup>ト<sup>ト</sup>詠<sup>てい</sup>ル

しぬく人よいとこの 年のまゝ 路<sup>路</sup>通

境<sup>境</sup>界<sup>界</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>詠<sup>てい</sup>ル

マコ水々又や 枝<sup>枝</sup>の<sup>の</sup>年<sup>年</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup> 其<sup>其</sup>角

耕<sup>耕</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>新<sup>新</sup>サ<sup>サ</sup>テ

サケけくく 津<sup>津</sup>や<sup>や</sup>北<sup>北</sup>何<sup>何</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup> 唯<sup>唯</sup>然

陽<sup>陽</sup>土<sup>土</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>詠<sup>てい</sup>ル

と年<sup>と</sup>新<sup>新</sup>や<sup>や</sup>あま<sup>あま</sup>の<sup>の</sup>卯<sup>卯</sup> 一<sup>一</sup>み<sup>み</sup>た<sup>た</sup>ふ<sup>ふ</sup> 北<sup>北</sup>枝

口<sup>口</sup>日<sup>日</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>詠<sup>てい</sup>ル

母<sup>母</sup>ト<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>シ<sup>シ</sup>カ<sup>カ</sup>程<sup>程</sup>可<sup>可</sup>感<sup>感</sup>ス



在口按本号手书为德下

以他见他活生割草上

以知八经平月 以知八

嘉洲子





